

2009 年度イギリス（ロンドン）研修旅行レポート

ロンドンで会おう 世界の人々！！

本学では例年、海外研修を実施しています。

今回の行き先は、イギリス ロンドン。学生の専門性に合わせた施設の視察や、異文化体験を目的としています。リハビリテーション施設「ボバーズセンター」や老人福祉施設、子育て子持ち支援政策施設などを訪問したり、ロンドンやオックスフォードの市内観光にも訪れます。

この度、引率の水野友有先生から楽しい旅のレポートが届きました。下の研修日程一覧表からご覧いただけますので、どうぞお楽しみください。

研修期間

2010 年 3 月 25 日（水）～3 月 31 日（水） 7 日間（5 泊 7 日）

滞在都市

イギリス（ロンドン）

参加人数

9 名

同行教員

中部学院大学子ども学部 水野友有 講師

研修日程

	月日	都市	時間	スケジュール
1	3/25(木)	中部 ソウル ロンドン	09:30 13:10 16:20	中部国際空港→ソウル・インチョン空港【2時間5分】 インチョン→ロンドン・ヒースロー空港【12時間10分】 ロンドン着後、ロンドン市内へ【ロンドン泊】
2	3/26(金)	ロンドン	終日	*イギリス医療施設の視察 ロンドン市内見学【ロンドン泊】
3	3/27(土)	ロンドン	終日	オックスフォード日帰り見学【ロンドン泊】
4	3/28(日)	ロンドン	-	各自、自由研修フリータイム【ロンドン泊】
5	3/29(月)	ロンドン	終日	老人福祉施設見学 イギリスの子育て子持ち支援政策施設訪問とレクチャー【ロンドン泊】
6	3/30(火)	ロンドン発	朝 夕方 19:50	出発まで各自フリータイム ヒースロー空港へ ヒースロー空港→インチョン空港【所要時間 10 時間 50 分】
7	3/31 (水)	ソウル着 ソウル発 中部着	14:40 19:00 20:45	ソウル到着後、乗換【所要時間 1 時間 45 分】 中部国際空港着後、解散

イギリス（ロンドン）研修旅行レポート vol.1

第1日目：3月25日（木）

日程

- 中部国際空港→ソウル・インチョン空港
- ソウル・インチョン空港→ロンドン・ヒースロー空港
- ヒースロー空港→ロンドン市内(チャーターバス)
- ロンドン市内のレストランにて夕食→ホテル

日本脱出：中部国際空港→ソウル・インチョン空港

3月25日（木）、いよいよ7日間のロンドン研修が始まりました。

今回の参加メンバーは大学および短期大学部生の9名。そのうち8名が初の海外旅行というメンバーです。

朝の中部国際空港は各国に旅立つ人たちでいっぱいでした。同じ日にモンゴルに帰国する本学の留学生2人とも会いました。

ほとんどが初海外のメンバーたちは、出国前は少し緊張した様子でしたが、飛行機に搭乗すると期待にあふれた表情に変わっていました。

乗り継ぎをするソウル・インチョン空港へと飛び立ちました。

かなりの揺れも手伝って、心身ともに弾みながら、約2時間でソウル・インチョン空港へ到着。ハブ空港としての動く空港のスケールに驚きました。



出国前のチェックイン



乗り継ぎで立ち寄ったソウル・インチョン空港にて

ロンドンへ：ソウル・インチョン空港→ロンドン・ヒースロー空港

いよいよ最終目的ロンドン・ヒースローへ、12時間の空の旅がはじまりました。

2回の機内食と映画や音楽を楽しみ、長旅では重要な睡眠をそれぞれ適度にとり、あっという間にロンド

ン・ヒースロー空港でした。

時差は-9時間。ロンドン時間で16:40に到着しました。

入国に時間がかかると噂のロンドン・ヒースロー空港でしたが、添乗員さんの巧みな誘導により、予想以上にスムーズに入国。

入国の際、係員の視線とネイティブ英語による質問に戸惑う学生さんもいましたが、何とか乗りきってイギリス・ロンドンに入国しました(これも研修、研修)。



機内からの雲海に感銘

ロンドン市内へ：ロンドン・ヒースロー空港→ロンドン市内（夕食レストラン）

ロンドンらしい天候が私たちを迎えてくれました。横殴りの雨。

現地のガイドさんと合流し、チャーターバスでロンドン市内まで移動しました。

気温は16°Cぐらい。思っていたよりは寒くありませんでした。

市内のレストランで下車し、現地名物のフィッシュ&チップスをいただきました。

レストランのウェイターさんともすっかり仲良くなり、お腹も気持ちも早速ロンドンを堪能している様子でした。



ロンドンらしい天気のお出迎え



初のお食事 in ロンドン



名物のフィッシュ&チップス

5日間の寝床へ：レストラン→ホテル

夕食後は、再びバスに乗り、夜の街を通り抜けて5日間滞在するホテルに移動しました。

ホテルはロンドンの中心にある「JOLLY HOTEL ST.ERMINS」。お向かいがNew Scotland Yard（警視庁）で名実ともに治安が良く、徒歩10分圏内に観光スポットが点在している、5日間滞在するには申し分ないホテルです。

ヨーロッパらしいホテルの佇まいや内装の隅々にまで目が奪われ、興奮さめやらぬ様子で写真を撮るメンバーたち。（「5日間いるのだから、今撮らなくても大丈夫だよ。」→「あ、そうか!?!」）

ホテルのチェックインをすませ、明日の予定を確認して解散しました。

何事もなく、全員元気で無事にロンドンに到着しました。

明日は、早速リハビリテーション関係の施設視察です。その様子は、またここでレポートさせていただきます。

See you tomorrow!!

引率&レポーター：水野 友有（子ども学部子ども学科 講師）

イギリス（ロンドン）研修旅行レポート vol.2

第2日目：3月26日（金）

日程

- 午前：イギリスの医療施設視察
- 午後：ロンドン市内見学

ロンドンの青空&豪華な散歩

ロンドン2日目。

昨晚の天気がうそのよう晴天でした。

といっても、天気予報はすべての種類の天気マークが出ているという・・・これもロンドン。

ホテルの周辺は観光スポットがたくさん。

約束したわけでもなく、メンバー全員が自発的に早起きをして散歩にでかけていました。

朝のうちに周囲のほとんどの観光スポットを制覇した学生さんや、楽しすぎてか、途中迷ってしまい走りまわった学生さんも。（朝食時間にはきちんと間に合う、えらい。）



ホテルの合間から見えるロンドンの青空



朝のウエストミンスター寺院

施設視察その1：「BOBATH CENTRE for children with cerebral palsy」視察

午前はこの研修最初の施設視察。

チャーターバスに乗りこみ、繁華街や高級住宅地を通り抜けて北に約40分、「ボバースセンター」に到着しました。

ボバースセンターは、脳性麻痺児(者)を対象にしたリハビリテーションをおこなっている施設です。ドイツ人であるボバース夫妻がロンドンへ移住した後に開発した「ボバース法」は、日本でも非常に有名で、実際に取り入れている現場も少なくありません。

まずは、施設の方から、ボバースセンター全体的な説明をしていただきました。通訳の方を通してメンバ

ーたちは真剣に聴いていました。



ボバーズセンター前にて

次に2班に別れて、実際の療育場面を2ケースずつ見学させていただきました。

いずれのケースも、ロンドン近郊から保護者とともに来所し、2週間のプログラムに取り組んでいるということでした。

それぞれのケースを見学後、療育に関する質疑応答の時間が設けられ、メンバーたちは積極的に質問をしたり、感想を述べたりしました。

1時間半という短い時間でしたが、療育場面を間近で見学できたことや、質疑応答の時間を十分とっていただいたことで、大変内容の濃い施設視察となりました。

※視察に関しては、簡単な報告にとどめます。帰国後、メンバーより詳細な報告をする予定です!!

ロンドン市内見学

ピカデリーサーカス（昼食：中華料理） → 三越 → 大英博物館 → ロンドン塔 → ナショナルギャラリー → バッキンガム宮殿

車窓も楽しみながら、観光スポット間を移動しました。

各スポット平均20分でロンドン市内を駆け巡ったという感じ。それでも、現地のガイドさんの膨大な知識と巧みな話術に助けられ、ロンドンの名所を確実におさえることができました。

メンバーたちは、「もう一度来たい」、あるいは「もっとここにいたい」という気持ちが芽生えたのではないのでしょうか。これも研修の一つの目的です。

実際にメンバー4人は、ナショナルギャラリーでの長い滞在を希望し、後にホテルで合流することになりました。

残りのメンバーは予定通り、バッキンガム宮殿へ。

トラファルガースクエアから宮殿まで一直線に伸びるザ・マルを通り、その先にある女王様ご不在のバッキンガム宮殿へ立ち寄りしました。

ちなみに、ザ・マルは許可証を持っているバスしか通れないとのこと。



タワー・ブリッジを背景に



ザ・マルの終点に見えるバッキンガム宮殿

2日目の夕食：レストランパブ（ローストビーフ）

予定時刻に全員集合し、ホテルから徒歩3分のレストランパブへ移動。

今日は金曜日の夜ということもあり、ビールを片手に談話する人たちで賑やかな店内。また、早めのイースターホリデーを利用した団体観光客もたくさんおり、予定より遅めの夕食となりました。

本日のメニューはローストビーフ。椅子に座って2日間の疲れがどっと出たメンバーや、あるいは食事の量に圧倒されたメンバーもいたようですが、笑いが耐えない夕食となっていました。



2日目の夕食

夕食後は、明日の予定を確認して解散。メンバーのほとんどが「ロンドン・アイ」まで散歩し、夜景撮影や現地の方との会話を楽しんだようです。

明日は、オックスフォードに遠足です。初めての電車の旅。また明日レポートします。

See you tomorrow!!

引率&レポーター：水野 友有（子ども学部子ども学科 講師）

イギリス（ロンドン）研修旅行レポート vol.3

第3日目：3月27日（土）

日程

- 終日：オックスフォード見学
（ロンドンに戻り次第、フリータイム）

地下鉄でパディントン駅へ：地下鉄休業!! 乗り換えて目的地へ

各々の朝の時間を過ごし、9時にロビーに集合。

本日も昨日お世話になったガイドさんが同行してくれました。

そこで、集合するなり予定変更のお知らせ。

「ビクトリア線が全区間ストップしているので別のルートでいきます!!」

なるほど、良くあることと聞いていたのでメンバーも特に驚くこともなく、ガイドさんの指示に従いながら、エンバンク駅で乗り換えて迂回する形でパディントンへ向かいました。

ちなみに、今回はストライキなどではなく、2012年に開催されるロンドンオリンピックの準備の一環とのことでした。

毎週どこかの線が修復作業をしており、地下鉄だけでなく、路面もところどころ工事をしていました。

この予定変更(地下鉄の乗り換え経験)は、今後のフリータイムのための、大変良い研修になったと思います。



ロンドンと北西の街をつなぐパディントン駅

パディントン駅から車窓の旅：列車でオックスフォードへ

予定していた電車に無事乗り込み、オックスフォードまで約50分。

ロンドンを離れると、徐々に風景が変わっていきました。



オックスフォードへ向かう電車からの車窓

10:40、オックスフォード（Oxford）に到着。

Ox=牛、Ford=浅瀬、これらの言葉が組み合わさったのが Oxford だそう。

駅から徒歩で中心街へ、それから本日の見学スポットに行きました。



中心街へつながる道

800年の歴史がつまった「学び舎」見学：各カレッジの見学

いよいよ、オックスフォード大学内の見学。そのオックスフォード大学は、学ぶ分野ごとに三十数個のカレッジ（college）があり、各カレッジが講義室、教会、図書館、学食、学生宿舎などを所有しています。今回はその中でも有名なカレッジや図書館を見学しました。

同世代の学生さんたちがここで生活や勉強をしていると聞いてもピンとこないほど、その壮大さと歴史の深さに驚いていました。

そして、ラッキーなことに見学できないかもしれないといわれていたクライストチャーチの食堂にも入ることができました。

ガイドさんは、「一度 No と言われても粘らなきゃだめよ！」と。

そのお陰でイベントの準備中の様子を見学することができました。

添乗員さんも何度か来ているけれども初めて見学したとおっしゃっており、本当にラッキーだったのだとメンバー全員感激していました。

この食堂もそうですが、カレッジ内には「ハリーポッター」の撮影で使用されたスポットが随所あったため、メンバーの興奮はさらに増している様子でした。

ガイドさんのお話よりオックスフォード大学についてわずかながら理解すると、「ハリーポッター」の単なる撮影場所としてだけでなく、そのストーリーや構成がいかにこの大学に影響を受けているか、改めて実感することができました。メンバーたちも気づいたでしょうか。

クライストチャーチカレッジを後にし、教会や皇太子、皇太子妃殿下が学ばれたカレッジ、図書館などを観てまわりました。

最後にフリータイムを設け、オックスフォードの街を自分たちなりに堪能しました。



Christ Church College の正門



Great Hall in Christ Church College



カレッジ出身の著名人たちの肖像画

ロンドンへ戻りフリータイム：パディントン駅で解散

オックスフォードを満喫し、ロンドンへ。

復路車内では、ガイドさんや添乗員さんにアドバイスをいただいて、明日のフリーデーの計画を練っていました。

16:00 にパディントン駅に到着。

地元の子も交え、パディントンベアの銅像の前で写真撮影しました。

2日間大変お世話になった現地ガイドさんにお礼のカードとチョコレートを渡してお別れし、メンバーたちも解散しました。



パディントンベアと地元の子を囲んで

その後はフリータイムでパディントンに残るメンバー、地下鉄で繁華街やマーケット街に向かうメンバー、明日のフリーデーのためにホテルで休むメンバーなどなど、ロンドンにも慣れてきた様子でそれぞれ積極的に行動していました。

それぞれのフリータイムを満喫して、本日も無事に終了しました。

明日は待ちに待ったフリータイム、自主研修の日です。

それぞれの興味関心に貪欲に、イギリスでのフィールドワークを楽しんでもらいたいと思います。

では、また。

See you tomorrow!!

引率&レポーター：水野 友有（子ども学部子ども学科 講師）

イギリス（ロンドン）研修旅行レポート vol.4

第4日目：3月28日（日）

日程

- 終日：フリータイム

自主研修としてのフリータイム

今回の研修はメンバーが少ないということもあり、このフリータイムについては、事前学習と昨日の現地ガイドさんや添乗員さんにアドバイスをいただき、しっかりコーディネートできていたので、それぞれ自分の興味関心に合った旅、自主研修が可能となりました。

- 美術館および公園巡り
- マーケット巡り
- カンタベリー寺院への日帰り旅
- コッツウエルへの日帰り

まだそれぞれの詳細は聞いていませんが、それぞれが無事で、かつ非常に充実した時間を過ごした様子でした。

これもまた帰国後に、詳細を報告（自慢を）していただきましょう。

明日は1日施設見学の日です。

メンバーたちも大変楽しみにしています。

また実りある一日でありますように…。

では、また。

See you tomorrow!!

引率&レポーター：水野 友有（子ども学部子ども学科 講師）

イギリス（ロンドン）研修旅行レポート vol.5

第5日目：3月29日（月）

日程

- 午前：高齢者向き小規模集合住宅視察
- 午後：イギリス子育て子持ち支援政策施設視察（視察終わり次第フリータイム）

高齢者施設視察：シェルタードハウジング・ローリストンロッジ

昨日のフリーデーでは各々の目的をきっちり達成した様子で、朝食時にはそれぞれの経験や感想の話で盛り上がっていました。

本日は少し早めに集合し、3日前に同行してくださった通訳さんと、チャーターバスで北へ30分、本日の目的地に向かいました。

アイルランド人が多く住む地域で、公営住宅が立ち並ぶその一角に、本日の訪問先である「シェルタードハウジング・ローリストンロッジ」がありました。

私たちを迎えてくださった施設長のローズさん。

着くなり私たちの目の前にはたくさんのフルーツやお菓子、飲み物が準備されました。

遠くからやってきた大学生たちが緊張せずに研修に臨めるようにとのことで、早速、頭が下がるホスピタリティーで迎えていただきました。

まず、ローズさんより施設やその運営の説明がありました。

この施設は、社会的に弱い立場にある（あった）高齢者を対象とした施設で、身体的、環境的、精神的に何らかの問題を抱えながらも、自立した生活を希望している、またそれが可能だと判断された方々が入居していました。

入居高齢者の方は22名、全部で24あるフラット（住宅）のうち彼女とケアラーがそれぞれ住んでおり、施設内のほとんどの管理、ソーシャルワーカーをはじめ、他の専門家とのやりとり、自治体との交渉など、ローズさんが一人でおこなっているとのことでした。

施設の説明のみならず、これまでの事例（エピソード）を詳細にお話していただき、メンバーたちも驚いたり感心したりしながら、一生懸命聴いていました。

ローズさんのお話の後、施設内を案内していただき、入居者共有スペースのガーデンや実際の入居者の方のお部屋にも訪問させていただきました。

最後に施設名が入ったエコバックとマグカップをお土産にいただき、お礼の挨拶をして施設を後にしました。



ローズさんの話を聴くメンバー



ガーデンとフラット（住居）



施設内を見学するメンバー



ローズさんと集合写真

子育て支援施設視察：イギリス子育て子持ち(子育て)支援政策施設

高齢者施設を後にし、チャーターバスで街中移動し、予定していた昼食（インド料理）を急いでとって次の目的地へ。

ロンドン中心より北東へ20分、街の風景もかなり変わってきました。

12:55 到着、バスを降りると小学生たちが遊ぶバスケットコートの際に、訪問先の「The Factory Children's Project and Center」がありました。



The Factory Children's Project and Center

この施設は昨年の研修でも訪問しています。

説明の際、2つの資料を渡されたのですが、施設紹介の冊子の表紙には、昨年の海外研修メンバーの写真

がありました。



施設紹介の冊子



今年のメンバーたちの写真

「この地域はヨーロッパでもとても貧しい地域です」
という最初の言葉にすこし緊張した表情のメンバーたちも、とても陽気で元気な施設長さんのお話
に顔がほころんでいました。



施設長さんの話を聴くメンバーたち



今年のメンバーたちの集合写真

その後、実際に子どもたちが過ごす様子や、親子で通われている様子などを見学させていただきました。
バスが到着するギリギリまで職員の方をつかまえて質問する様子がみられました。
今後もぜひ交流していきたいというお言葉をいただいて施設を後にしました。

充実した施設視察を終えて：ホテル→フリータイム

一度ホテルへ戻り、水野部屋でミーティングをした後解散。

教会巡り、ショッピング、ミュージカル鑑賞などなど、それぞれ最後のロンドンの夜を堪能したようでした。

本日も何事もなく無事終了。

明日はいよいよ帰国です。全員「帰りたくない」とのこと。

でも帰りますよ。

明日も 16:00 まではフリータイムということで、心残りがないようメンバーたちは入念な計画を立てていました。

では、また。

See you tomorrow!!

引率&レポーター：水野 友有（子ども学部子ども学科 講師）

イギリス（ロンドン）研修旅行レポート vol.6

第6日目：3月30日（火）

日程

- 16:30 までフリータイム
- ホテル→ロンドン・ヒースロー空港
- ロンドン・ヒースロー空港→ソウル・インチョン空港

最後のロンドン：16:30 までフリータイム

いよいよロンドン最後の日。

ホテルを出発する 16:30 まではフリータイムでした。

個人の目的達成のために9名それぞれが自発的に行動していた姿が印象的でした。

その姿は初日の様子からは想像もつかないほど遅くなっていました。

近しい仲間うちで行動するのではなく、目的が同じメンバーが自然に集まり、あるいは途中で合流して各々の目的をしっかりと達成したようでした。

初めての海外旅行、日本語も通じない、携帯電話もない、こうした環境の中で「12時にトラファルガースクエアね!!」と、ロンドンで待ち合わせをしているメンバーたちがとても頼もしく思えました。

フリータイムを終えて、集合時間より少し早めにホテルのロビーで待っていると、それぞれが満足した表情で戻ってきました。

水野：「ロンドン満喫できましたか？」

メンバーA：「はい!!本当に楽しかったです。まだ足りないけど。」

水野：「皆さんのお陰で、私も本当に楽しめましたよ。」

メンバーB：「というか・・・先生が一番楽しんでいましたよね？」

水野：「いやいや、皆さんと同じぐらいです。」

メンバー全員：「いやいやいやいや」

水野：「いやいやいやいや。望んでいないかもしれませんが・・・みんなもこんな大人になる素質ありますよ。」

メンバー全員：「いやいやいや・・・（^^）」

ロンドン話に花を咲かせながら出発までの時間を過ごしました。

そして、誰一人として遅刻やリタイアすることなく、ロンドンでの研修を終えることができました。



テート・モダン



セントポール大聖堂

ロンドンとのお別れ：ホテル→ロンドン・ヒースロー空港

思い出もいっぱい、荷物もいっぱい。

最後の難関はスーツケース 20kg 以内を目指してのパッキング。

本や絵本を購入したメンバーも多く、自分の荷物の重さにみんなヒヤヒヤしていましたが、お互い協力し合って、何とか許される範囲の重さまでに収まりました。

(といっても、私の手荷物が一番重くて大きかったようです・・・)

5日間滞在したホテルを出発し、毎朝の散歩で訪れたバッキンガム宮殿、フリータイムで堪能したビクトリア・アルバート博物館、科学博物館、自然史博物館などの前を通り、ロンドンの街に別れを告げました。

ヒースロー空港は混雑していましたが、チェックインも出国もスムーズに終わりました。

出国後は免税店では最後のお土産購入を楽しみ、ソウルへ向かう飛行機に搭乗しました。

ソウルに着けばすでに 31 日。

「また絶対ロンドンに来たい!!」と口をそろえるメンバーたちをみて、研修旅行の大きな目的が達成できたなあと思いました。



チャーターバスでホテルからヒースロー空港へ



最後の車窓 in ロンドン

よその国イギリス ロンドンに別れを告げるメンバーたちの鞆からは、「ハロズベア」がひょっこり顔を出し、母国に別れを告げていました。

では、明日帰国します。

See you soon!!



「ハロズベア」日本へご招待



ロンドンとお別れ「また来ます!!」

引率&レポーター：水野 友有（子ども学部子ども学科 講師）

イギリス（ロンドン）研修旅行レポート vol.7

第7日目：3月31日（水）

日程

- 機内泊
- ソウル・インチョン空港→中部国際空港
- 解散

インチョン空港観光：インチョン空港で3時間フリータイム

ほぼ時間通りソウル・インチョン空港に到着しました。

3月31日(水)14：40、研修最終日です。

韓国土産を購入するメンバー、

マッサージを受けるメンバー、

うどんを食べるメンバー、

搭乗まで約3時間を有意義に過ごしました。

18：30、最後の飛行機へ搭乗。

2時間後はもう日本です。

「育ち」の旅：ソウル・インチョン空港→中部国際空港・解散

最後の機内でもメンバーたちはとても元気でした。

帰国してからメンバーで集まる約束などをしていました。

最初はお互いあんなによそよそしかったのになあ。

柔軟でたおやかな若者たち脱帽でした。

21:00、健康で何事もなく全員無事に帰国。

長旅に耐えたスーツケースを受け取り、大変お世話になった添乗員さんにお礼をして、解散しました。

添乗員さんは、『行きと帰りのメンバーたちの顔がまったく違う』と。

確かにたった1週間の研修旅行でしたが、メンバーたちの「育ち」が手に取るようにわかる旅でした。

今回引率として同行させていただき、教員としても貴重な経験ができたと思います。

（まだまだ若輩な私自身も育っているといいのですが・・・。）



すっかりなじんだメンバーたち with ハロズベア

メンバー全員が安全に何事もなく終わることができたことはもちろん、それ以上に「学び」と「育ち」があ

った有意義な研修旅行でした。

といっても、お家に帰るまでが遠足。

学びをまとめて発表するまでが研修!!

まだまだこの海外研修は終わっていません。

旅の過程でそれぞれが集めてきた材料を持ちより、さまざまな体験を報告しあいながら「成果物」を残す予定です。

こうした旅の後の作業を通して（楽しんで）、記録にも記憶にも「残る旅」になって欲しいと思います。

事後指導の様子は、また「イギリス（ロンドン）研修旅行その後」で報告したいと思います。

Thank you!!

引率&レポーター：水野 友有（子ども学部子ども学科 講師）